

# 小児科専門医研修ネットワークプログラム

## 1 はじめに

小児科医は成長、発達過程にある小児を診療するため、正常小児の成長・発達に関する知識が不可欠で、新生児期から思春期まで幅広い知識と、発達段階によって疾患内容が異なるという知識が必要です。さらに小児科医は general physician としての能力が求められるため、小児科医として必須の疾患をまれなく経験し、疾患の知識とチーム医療・問題対応能力・安全管理能力を獲得し、家族への説明と同意を得る技能を身につける必要があります。

聖隷浜松病院・聖隷三方原病院ともに症例は多彩かつ豊富であり、小児科専門医としての知識・技能を修得するために最適な施設です。一緒に地域医療を支えながら充実した研修を行い、専門医を目指しましょう！



プログラムリーダー 聖隷浜松病院小児科部長 松林 正

## 2 目的

本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く研修することを目指します。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医になることをめざしてください。

## 3 目標

本プログラムの小児科専門医研修では、日本小児科学会が定めた「小児科専門医研修の到達目標」のレベルAの臨床能力の獲得をめざして研修を行います。到達度の自己評価と指導医からのアドバイスを受けるために、小児科専門医臨床研修手帳（以下、研修手帳）を常に携帯し、定期的に振り返りながら研修を進めてください。

- 1) 臨床現場での学習：外来、病棟、健診などで、到達目標に記載されたレベルAの臨床経験を積むことが基本となります。経験した症例は指導医からフィードバック・アドバイスを受けながら、診療録への記載、サマリーレポートの作成、研修手帳への記載（ふりかえりと指導医からのフィードバック）、臨床カンファレンス、抄読会、CPCでの発表などを経て、知識、臨床能力を定着させていきます。
- 2) 臨床現場を離れた学習：以下の学習機会を利用して、到達目標達成の助けとしてください。
  - (1) 日本小児科学会学術集会、分科会主催の学会、地方会、研究会、セミナー、講習会等への参加
  - (2) 小児科学会主催の「小児科専門医取得のためのインテンシブコース」受講
  - (3) 学会・研究会等での症例発表
  - (4) 日本小児科学会オンラインセミナー：医療安全、感染対策、医療倫理、医療者教育など
  - (5) 日本小児科学会雑誌等の定期購読および症例報告等の投稿
  - (6) 論文執筆
- 3) 自己学習：到達目標と研修手帳に記載されている小児疾患、病態、手技などの項目を自己評価しながら、不足した分野・疾患については自己学習を進めてください。

## 4 研修カリキュラム

小児科専門研修においては広範な領域をローテーションしながら研修するため、研修途中においては小児科学会が定めたマイルストーン（下記参照）の達成度を確認しながら研修を進めます。達成度は専攻医ごとに異なっていて構いませんが、研修修了時点で一定レベルに達することが望まれます。

- 1年次：健康な子どもと家族、common disease、小児保健・医療制度の理解。基本的診療技能（面接、診察、手技）、健康診査法の修得。小児科総合医、育児・健康支援者としての役割を自覚する。
- 2年次：病児と家族、重症疾患・救急疾患の理解。診療技能に習熟し、重症疾患・救急疾患に的確に対応できる。小児科総合医としての実践力を高める、後輩の指導。
- 3・4年次（チーフレジデント）：高度先進医療、希少難病、障がい児に関する理解。高度先進医療、希少難病、障がい児に関する技能の習得。子どもの代弁者、学識者、プロフェッショナルとしての実践。専攻医とりまとめ、後輩指導、研修プログラムへの積極的関与。

## 5 研修例

ローテート例

	研修基幹施設 聖隷浜松病院小児科	研修基幹施設 聖隷浜松病院新生児科	連携施設 聖隷三方原病院
	静岡県西部医療圏 (主として南部)	静岡県西部医療圏	静岡県西部医療圏 (主として北部)
専攻医 イ	1	2	3
専攻医 ロ	3	1	2
専攻医 ハ	2	3	1
専攻医 ニ	1	2	3
研修期間	1年間	1年間	1年間
研修内容	小児科医として子どもの成長と発達をみまもり援助するという心構えを確立する。専門分野（循環器、神経、腎、内分泌、免疫、血液・腫瘍など）を中心に小児科学全ての領域を研修し、小児科医としての知識と診療技能を習得する。	早産児、低出生体重児、外科的疾患、先天性心疾患、適応障害、黄疸、感染症等の治療を要する全ての病的新生児の管理について研修する。	地域の救急医療に参加し研修する。Common disease、神経疾患、救急疾患を中心に小児科学全ての領域の診療に従事するとともに後輩専攻医の相談にものり、的確な指導も行う修練もする。

## 6 研修病院群

聖隷浜松病院小児科

聖隷浜松病院新生児科

聖隷三方原病院小児科

## 7 研修期間

4年間（3年間研修の選択も可能）。4年目に専門医試験を受験することが可能です。原則として最初の3年間で3施設（聖隷浜松病院小児科、聖隷浜松病院新生児科、聖隷三方原病院小児科）をローテートします。研修修了後、subspeciality の研修が可能です。